

《高女グローバル研修 in USA Day2 (12月9日) 報告書》

朝なのか夜なのか、夢と現実の境目が分からないようなふわとした感覚で目覚めたであろうアメリカで迎えた初めての朝、6時の開場にあわせて続々と朝食会場に姿を現す高女生の姿がありました。

こちらのホテルの朝食はビュッフェスタイルをとりつつ、自らホットミール（オムレツなど）はオーダーできるシステムです。皆持っている英語力を駆使し立派に注文していました。そして、恐らく3人前はある巨大なオムレツに「私、こんなに頼みましたっけ？」と呆然とする姿も...。（ここはアメリカ）それぞれ食事を済ませ、昨夜伝達をした7:45の集合には、余裕を持って早めに集まってくるのも高女生ならではの姿。班ごとに点呼をとりながらバスに荷物を乗せ込みますが、少しざわつき始める班長たち。数名の生徒さんが見当たりません。.....起きられなかった。

中には涙目で状況報告とお詫びをしてくれる生徒さんもありました。目覚めたときのあの途方にくれる気持ちは痛い程分かります。悔しいだろうな、がっかりしているんだろうな。でも今日は初日、まだ初日。こんな失敗はいくらでも取り返しがつきますし、むしろこの痛みが後々の大きな飛躍につながると信じています。頑張れ！

霧雨のボストン市内を眺めつつ、バスは語学学校へと向かいます。昨夜飛び込んできた「今週は12月とは思えない暖かさ」という日本の天気予報を恨めしく思いながらも、こちらボストンも今日は予想外に気温が上がっていきます。語学学校のスタッフたちも口々に「先週の天気はひどかった。Youたち Luckyね」と声をかけてくれます。これも高女パワーということでしょう。

語学学校のELCには9時前に到着し、ディレクターのGwen、ヘッドティーチャーのMichelle、そしてハウジングコーディネーターのSherlyが飛び切りの笑顔で迎えてくれました。

教室に案内され、一息ついたかどうか分からないテンポの良さで早々にプレースメントテストが始まります。ペーパーでのライティングテストを受けながら、数名ずつ呼ばれ別室にてインタビューテストも同時進行で行われます。さすが高女生だなと思ったのはやはりインタビューテストの堂々たる姿で、むしろ楽しんでいられるのではと感じる程でした。

約1時間のテスト後にはSherlyからELCについての説明を受けます。授業時間のこと、学内でのルール、ホストファミリーとの生活について、皆時折メモをとりながら真剣に耳を傾けていました。

数名ですが今週から語学研修をスタートさせる外国人“同期”の姿も。(国籍も年齢も Diversity!)

そしてここELCでは、早速初日から英語クラスがスタートします。クラスは9:00~10:40までがGrammar、11:00~12:40がCommunication skillsという会話の授業となります。インタビューテストの結果をもとに早速振り分けられたクラスにて、今日は後半の会話の授業のみを受けますことになりました。クラスは今回4レベルに分けられましたが、オリエンテーションでは「クラス変更」についても示唆されています。またGwenが「高崎女子の生徒は毎年素晴らしい。たった1週間でも上に行きたいと自ら志願してくる生徒もいる」と言っていたように、ここはアメリカ、交渉の国です。もちろん現行のクラスでベストを尽くすことも一つの判断です。今の自分にとってどちらがベターなのか、自ら考え、選択し、判断し、責任を持つことが、どのレベルに入るかということ以上に意味のあることなのかなと思います。

そして短めの昼食を挟み（語学学校の周辺で各自調達。中にはこの短時間で敢えてレストランに入る強者も）、午後はアメリカ建国の歴史を辿るフリーダムトレイルツアーへと出かけていきました。ELCからはAdmissionのザックと、ボストン大学で日本語を選考していたというブリトニーの2名が同行してくれ、ボストンコモンにてガイドさんと合流し、2グループに分かれツアーへと出発しました。フリーダムトレイルについては事前研修で先生方がレクチャーをしてくださったので、予備知識としては十分かと思います。ボストンコモンに始まり、ジョン・ハンコック、ポール・リビア、サミュエル・アダムスといったアメリカの英雄たちが眠るグラナリー墓地、現在はCHIPOTLEというメキシカン料理店になっている（ガイドさん、かなり皮肉ってました）オールドコーナー書店、ボストン茶会事件につながる議論が交わされたオールドサウス教会、旧州議事堂にボストン虐殺事件の背景等、余りある情報量とともに主要箇所を可能な限り回る1時間強のツアーは、最後サミュエル・アダムス像の前にて終結いたしました。時折雨足が強くなる中傘をさしたり畳んだりを繰り返してのツアーとなりましたが、真剣にメモをとりながら一言も漏らすまいと耳を傾ける生徒さんも。

ツアー後には明日から必要な地下鉄チケット（Charlie ticket）をGovernment Centerの駅にて全員無事購入、急ぎELCに戻り、ここからまた二手に分かれてバンに乗り込み、各ホームステイへと向かいました。比較的広範囲に渡るホームステイエリアを夕方のラッシュの最中に巡回するため、最後の組が

ファミリーの家に到着したのが 21:00 前となり、長時間の移動となりましたが、それぞれ緊張しながらも笑顔で挨拶をかわし家の中へと入って行きました。クリスマスのデコレーションのある家庭、犬とともに歓迎してくれる家庭、積雪を考慮してか玄関が小上がりになっている家庭がボストンはほとんどですが、軽々とスーツケースを持ち上げ運んでくれるパワフルファーザー、来て早々明日の登校手段を気にしてくれるマザー等、それぞれのファミリーの顔によりやく辿り着けほっとした様子でした。

ほっとしたのも束の間、明日からは自らの足で学校に来るのですよ。手段、道順を万全に、時間通り登校できることを心より願っています。

実は、明日からが本当の本番です！（毎日更新される「本番」の日々は続く）



ディナーですか？ いえ、朝食です。



ELC 開校の偉人たち（現役）



左写真の左のお方、Gwen



「高崎ってどこよ？」



Michelle 先生と面接



よ〜い、スタート！



「あった、あったわ！」



合格発表風情のクラス発表



熱の入る説明、直立不動で傾聴



雨のグラナリー墓地



ツアーの最後は笑顔で



【ホストファミリーとの対面シーン 一部ご紹介】



ベル、鳴らしちゃった！



マザー登場！



マザー登場！（with 愛犬）



こちらはファーザー



最後のペア、到着！



雪だるまに焦点が・・・